

日本と原発4年後 無料上映会のご案内

上映日：5月20日
 ところ：上越市民プラザ1階ギャラリーA
 主催：つなげよう脱原発の輪上越の会
 上映開始時間：
 9:30～
 11:55～
 14:20～
 16:45～
 19:10～
 ※上映時間は2時間18分です。ぜひ、お出かけください。



新潟市で4日、憲法を守ろうと「ピース・フェスティバル」が開かれました。雨の中、約2500人が参加しました。上の写真は講演する小森陽一さん。



ひららぎ市議も出馬表明



平良木哲也（ひららぎ・てつや）上越市議が9日、6月1日告示の新潟県議補選（上越市区）に出馬することを明らかにしました。

平良木氏は、「この1年半、県政は大きく変わってきた。

原発再稼働は3つの検証が済まない限り議論できないということだけではなく、給付型の奨学金制度の創設や子ども医療費助成制度の拡充、安心して医療を受けられる体制づくりなど県政は変わりつつある。この流れをここで立ち切ってはならない」とのべました。

同氏は無所属で出馬し、市民と野党の共同を前進させていきたいとしています。この県議補選には元高校教師の齋京四郎氏も立候補を表明しています。

今年も直江津空襲を語り合う集い



「ぽかぽかと爆弾は落ちてきた」と91歳の男性

「直江津空襲と平和を考える集い」が5日、ありました。1945年5月5日の午前11時過ぎに行われた空襲で犠牲になった人たちを追悼し、平和への思いを確かめ合う会です。

今年もB29が爆弾を投下した時間に合わせ、現場近くの黒井公園で犠牲者を追悼しました。参加者は20数人。小規模ではありますが、20数人が、心に残る有意義な集いとなりました。

主催者として代わって挨拶した関川幹雄さん（写真）は、上越市史に書かれた直江津空襲の記事や9年前に大湊区在住の女性が語った体験談を読み上げ、空襲体験を語り継ぎ、平和を守っていくようと訴えました。

会では、長年参加していても体験談を語らなかつたYさん（91歳）が初めて口を開き、「名古屋で何回か



【ケナシヤブデマリ】スイカズラ科の落葉低木。漢字で「毛無し藪手毬」と書きます。花期は5～6月。ガクアジサイに似た大きな白い花を咲かせます。頸城区北福崎にて9日、撮影しました。

空襲を体験した後、こちらにきた。直江津のステンドグラスで最初にさせられたのは防空壕掘りの仕事。5月5日は曇りだった。何回も空襲を体験しているの、爆弾の音はわかる。ぽかぽかという音をさせて爆弾が落ちてきた。など語りました。いい会でしたね。

No.1857 2018.5.13

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL http://www.hose1.jp/



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一

検索

はしづめ法一の
活動レポート

春よ来い

第五〇五回

水が張られただけで

五月の日曜日の朝のことです。

少しだけ風が吹き、わが家のそばの木の葉を揺らしてしまいました。軽乗用車に乗って事務所まで行くとき、目に入ったのは田んぼです。きれいだなあ、と思いました。田んぼのほとんどが代になっていて、周りの景色を見事に映し出していたのです。

事務所に着いてから、カメラを手に持って、近くの田んぼの周辺を歩くことにしました。水が張られた田んぼの様々な風景を撮りたかったからです。

事務所から一〇〇メートルほどのところにある田んぼのそばで、まず足を止めました。田んぼは前日に代かきしたばかりなので、うね、まだ濁っていました。それでも、よく見ると、水面に杉とミズナラの木が映っていました。

水面から木の方へと目を移したら、風が見えました。正確に言うと、ミズナラの木の下の方の葉が東側から吹いてくる風で揺らされてきました。ゆっくり揺れている葉、せわしく揺れる葉など風の当たり具合によって葉の動きが違っていて面白い。私は、しばらく見入りました。

道をさらに一〇〇メートルほど進むと、用排水路と水門があります。その水門の隙間から水がこぼれ落ちていました。じよじよじよ……。その落ちる音がまた心地よく私の体に響いてきました。

水門のそばにある田んぼは私と同年代のYさんの耕作田です。近くの畔にはハルジオンが五、六本、ピンク色の花を咲かせていました。静かです。音こそ聞こえてきませんが、田んぼの向こうの畔を見たら、カラスが一羽、盛んに土をつついていました。何か虫でもいたのでしょうか。

このカラスを見ていたときに、白いトラックがスピードを緩め、私のそばで止ま

りました。Hさんでした。朝仕事をして家に戻る途中だったのだろうと思います。久しぶりに会ったこともあって、田んぼのことや仕事のことなどで話が弾みました。

Hさんが語った話の中で、印象に残ったのは夢の話です。夢の中で、カレーライスを食べている時に、すでに亡くなっているはずの柿崎の岩手の伯母さんが出てきて、桃を持ってきてくれたというのです。話をするとHさんはうれしそうでした。私は、「きつと何かいいことがあるんじゃないの」と言いました。

十数分後、Hさんと別れてから、私は水門の北西方向にある田んぼに目をやりました。ここでは、田んぼの表面に細かな波が丸い曲線を描きながら広がっている様子が見えました。これも東側から吹く風によるものです。それも強い風ではなく、水面をやさしくなでるような感じの風です。この水面もまた、きれいでした。

波が小刻みに広がっている田んぼの隣の田んぼへ行ってみました。しばらくすると風は止み、水面は完全に鏡になりました。ミズナラ、ヤマボウシ、ケヤキなどの木々の幹の色も葉の緑も映し出されています。目立ったのは藤の花、水面の紫色の花が実物と同じくらい美しく見えました。

田んぼを観察している最中、近くの雑木林からは小鳥たちの澄んだ鳴き声が聞こえてきます。

この日は立夏を迎えたばかりです。田んぼの畦に立っていた私を太陽が照らし続け、背中が次第に暖かくなるのを感じました。そして、首の付け根もまた暖かくなりました。再び田んぼに目を向けると、一羽のカラスが降りて、すぐに飛び立ちました。その瞬間、田んぼの中で木々の緑が揺れました。

旭新緑祭、今年も賑やか

4日の大島区の旭新緑祭、市内外から60人ほどの人たちが集まりました。

新緑祭では山菜採りコースとプラ林散策コースがあり、私は今回も散策コースへ。

案内役は牛田光則さん、「1本のプラの木に葉っぱは何枚あるでしょう。10万から40万枚あると言われていま



す」「プラの実生(みしょう)の生存率は0.1%なんですよ」などの説明は興味深く、わかりやすかったですね。

正午をまわってからは交流会です。竹平の農機具置き場で、山菜料理を堪能になってきました。この料理では、フキノトウ、コシヤガラ、ウドなどの天ぷら、ワサビの煮物、ウドなどが入った味噌汁などが並びました。最大の売りは、ウド一本の天ぷら。豪快な料理に圧倒されました。

「春よ来い」500回到達へのメッセージ(その1)

①いつも楽しみにして読んでます。お身体に気をつけて頑張ってください。(吉川区Y・Yさん)

②何とない日常のことの中に人間の生活が温かく……。 (T・Yさん)

③ほんわかとした会話、いいですね。温もりを感じます。一人で笑ってみたり、涙してみたり、声を出してびっくりしたりすることもあったりして……。会話の中には学ぶところがたくさんありますので、私の道しるべです。長生きしてよかったー。だけど、もう少し元気で学びたい。勇気がありがとうございます。春よ来い、早く来い。楽しみに待っています。(柿崎区T・Kさん)

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	5月2日(水)	5月9日(水)
上越南消防署	0.050	0.050
上越北消防署	0.047	0.053
新井消防署	0.043	0.050
頸北消防署	0.043	0.053
頸南消防署	0.050	0.050
東頸消防署	0.050	0.040
高士分遣所	0.047	0.050
名立分遣所	0.040	0.057